47

June & July 1957 operations

MAY 19
FISH &
SERVICE

鮪漁業 第四十七号 昭和三十三年二月十日発行 （毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

Tuna Fishing

—鮪漁船帰港途中のアオサ落し—

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

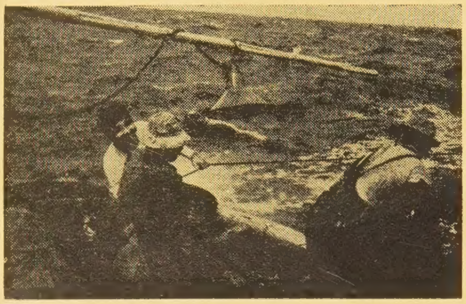
鮪漁業研究会

Feb

No. 47, 1958

倉敷ビニロン　**クレモナ万漁**

鮪延縄◆ロープ◆漁網



くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田２（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　２の４

▷最高の技術══永い信用◁

営業種目

- VHF新聞通信社用
- ビーコン装置
- 超短波通信機
- 極超短波通信機
- 高級無線用測定器
- 放送施設一式
- 船舶用無線機
- ラジオヒーター
- 高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話 砧（41）（代）7171―9番
電話 武蔵調布 472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町　9　電話 芝（43）代表7373―9番
大阪出張所　大阪市北区中之島２の25（江商ビル508号室）　電話 北浜（23）4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）　電話 中（４）2589・8198番

―目次―

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年6月現況）…………………… 1

1. 調査の概要…………………………………………………………………………………… 1

2. 漁況の概要…………………………………………………………………………………… 1

3. 各海区の漁況………………………………………………………………………………… 2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年6月操業分）別表1 …………………………………… 6

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年6月操業分）別表2 …………………………………… 8

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年7月現況）……………………11

1. 調査の概要……………………………………………………………………………………11

2. 漁況の概要……………………………………………………………………………………11

3. 各海区の漁況…………………………………………………………………………………11

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年7月操業分）別表1 ……………………………………15

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年7月操業分）別表2 ……………………………………17

鮪類標識放流について…………………………………………………………………………………18

大西洋の鮪漁業操業実績について…………………………… 相模丸船長　若生光一………19

業界メモ………………………………………………………………………………………………21

鮪類水揚価格表（三崎）昭和32年1月………………………………………………………………22

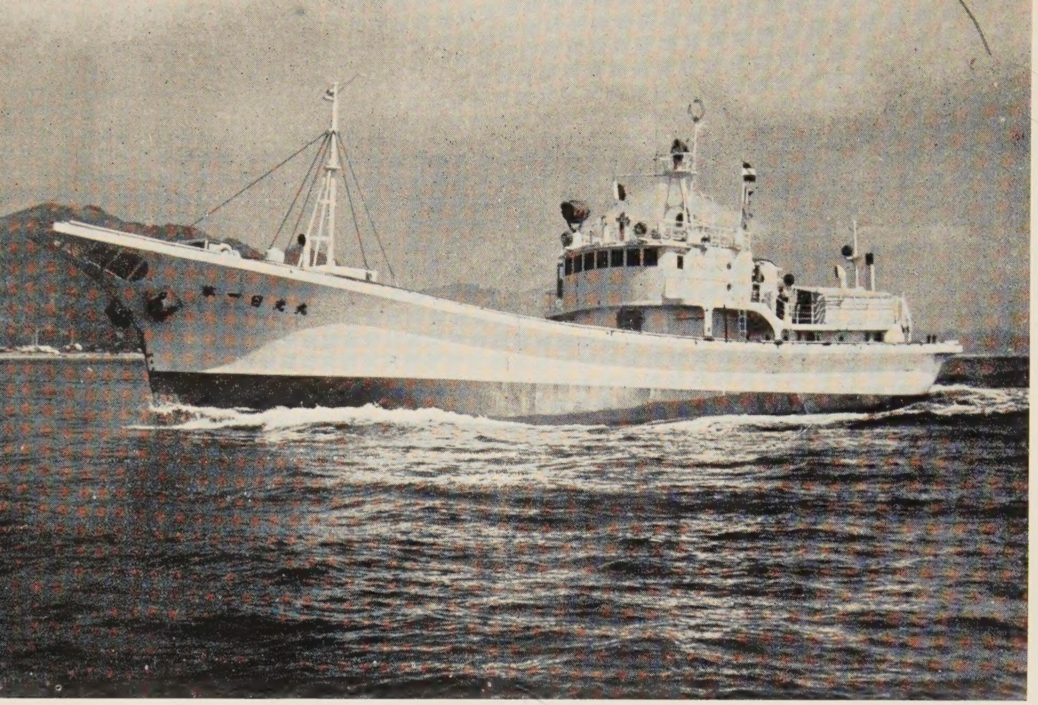
表紙題字　寺本正市
表紙写真　室戸岬船員同志会提供

船出の支度
石油は出光で

安全決適な航海の為に
是非・・・・・

出光興産株式会社

本社　東京・銀座東四丁目
三崎出張所　三浦市三崎町海南　電話三浦432



第一日光丸

船主	薮田　実（静岡県御前崎町）
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長 37.50m×幅7.20m×深3.65m
総屯数	302.15屯
魚艙容積	233.32m³
燃料油艙	116.18m³
速力	最大　10.50節
主機	デーゼル　650HP（新潟鉄工）　1基
補機	デーゼル100HP,75HP（川口鉄工）　各1基
無線	200W，75W（穂高通信工業）　各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式（日新興業） 50HP，30HP　各1基
レーダー，ローラン(安立)，方探(光電)，音測兼魚探（産研），延縄捲揚機(泉井)其の他	各1式
竣工	昭和32年4月[illegible]日

漁船の冷凍装置に定評ある

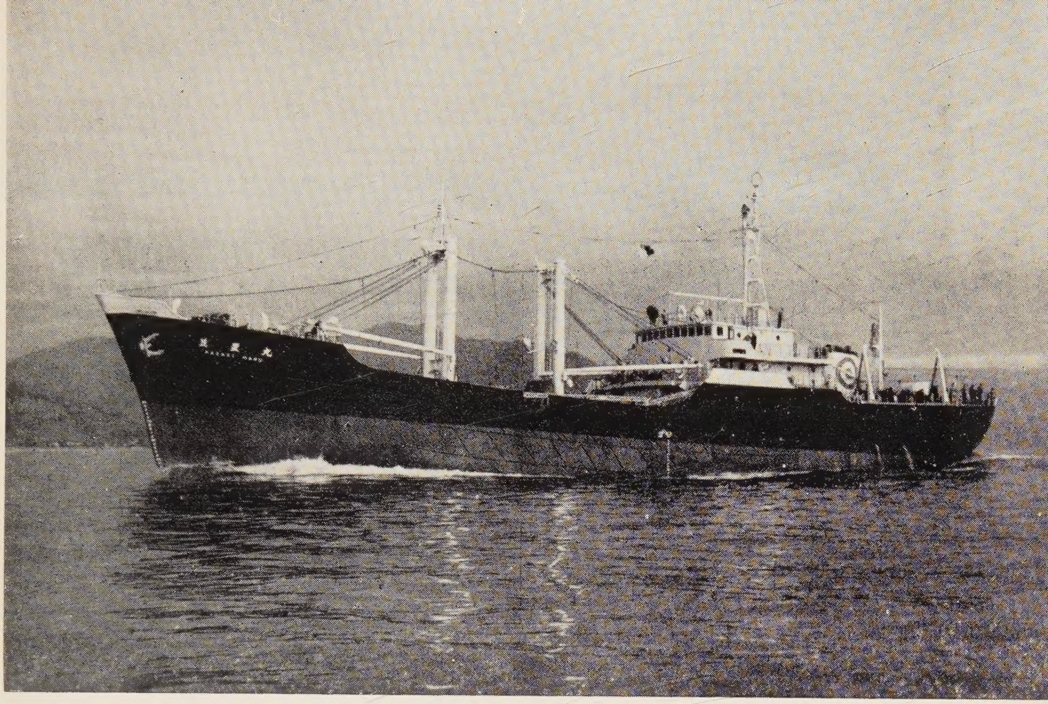
日新興業株

本　　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）
清水出張所　清水市三保本村四区
三崎サービスステーション 三浦市三崎町西野34金

鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社　**三保造船所**

本　　社　静岡県清水市三保3797　電話清水⑵代表2201番
東京事務所　東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705　電話 千代田（27）5522．6775．9761番



笠置丸

船主	日本水産株式会社
造船所	株式会社 金指造船所
主要寸法	長 68.00m×幅12.50m×深5.5m
総屯数	1.500屯
魚艙容積	1.500m³
燃料油艙	650m³
速力	最大 13.5節
主機	デーゼル 1800HP（新潟鉄工） 1基 （可変ピッチプロペラ付）
補機	デーゼル 400HP（新潟鉄工） 2基
無線	500W，50W（安立電気） 各1基
冷凍機	アンモニヤ直膨式高速多気筒 （日新興業） 200HP 2基 125HP 1基
其の他	レーダー（安立），方探（光電），魚探，音測（海上） 各1式
搭載艇	漁艇（20屯65HP） 1隻
竣工	昭和32年12月1日

式会社

TEL. 北浜（23）9736—7（直通）
1334.2351.9531
EL. 銀座（57）6804.6810.6811
EL. 清水（2） 3507
船所三崎出張所内TEL.三浦851

施工船名
- 第1日光丸
- 笠置丸
- 第15丸高丸
- 第18海王丸
- 第1昭和丸
- 第12全功丸
- （其の他約五百隻）

各種鋼製漁船の建造並に修理

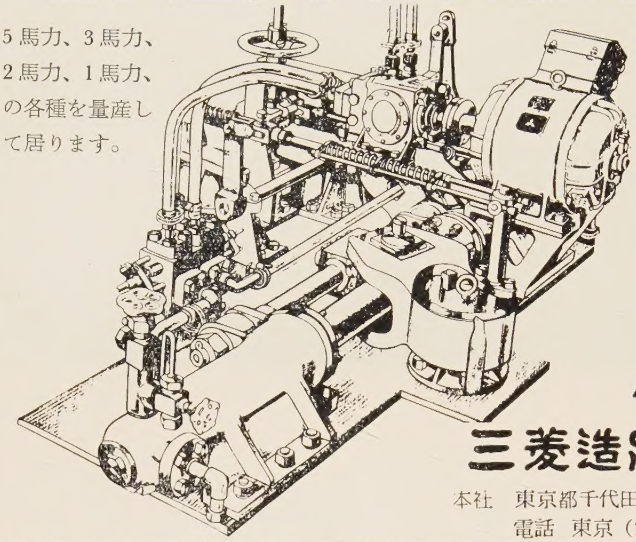
株式会社 金指造船所

本社工場 清水市三保4010—19 電話 清水 2380～2 3796～7
塚間工場 清水市三保弁天492 電話 清水 3870～7
東京事務所 東京都港区芝田村町3ノ4 電話 芝（43）7296～8
三崎出張所 三浦市三崎町西野34 電話（三浦） 851

漁船用

三菱〔小型〕ジャネー式電動油圧舵取装置

5馬力、3馬力、
2馬力、1馬力、
の各種を量産し
て居ります。

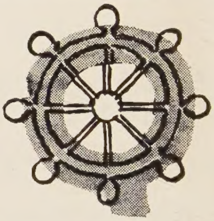


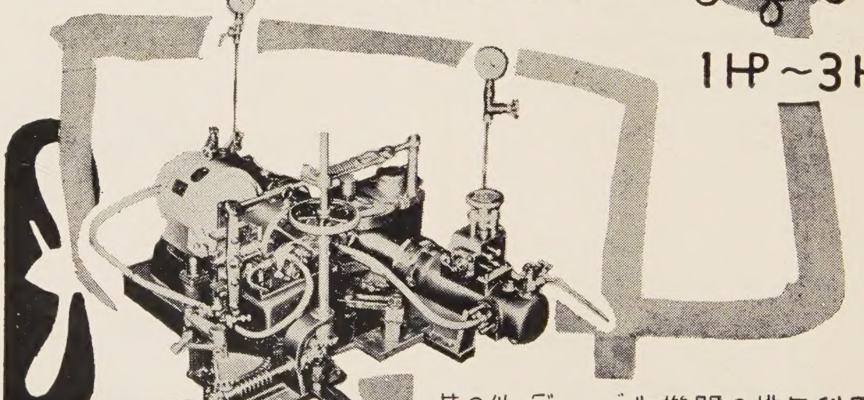
商船及び艦艇用として
多年絶対的信用を博し
ている三菱ジャネー式
舵取装置を漁船用とし
て小型化したもので既
に数拾台以上が漁船に
取付けられ好評を得て
居ります。

三菱造船株式會社

本社　東京都千代田区丸ノ内2の4（三菱本館）
電話　東京（28）代表5111．3111．0331

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置



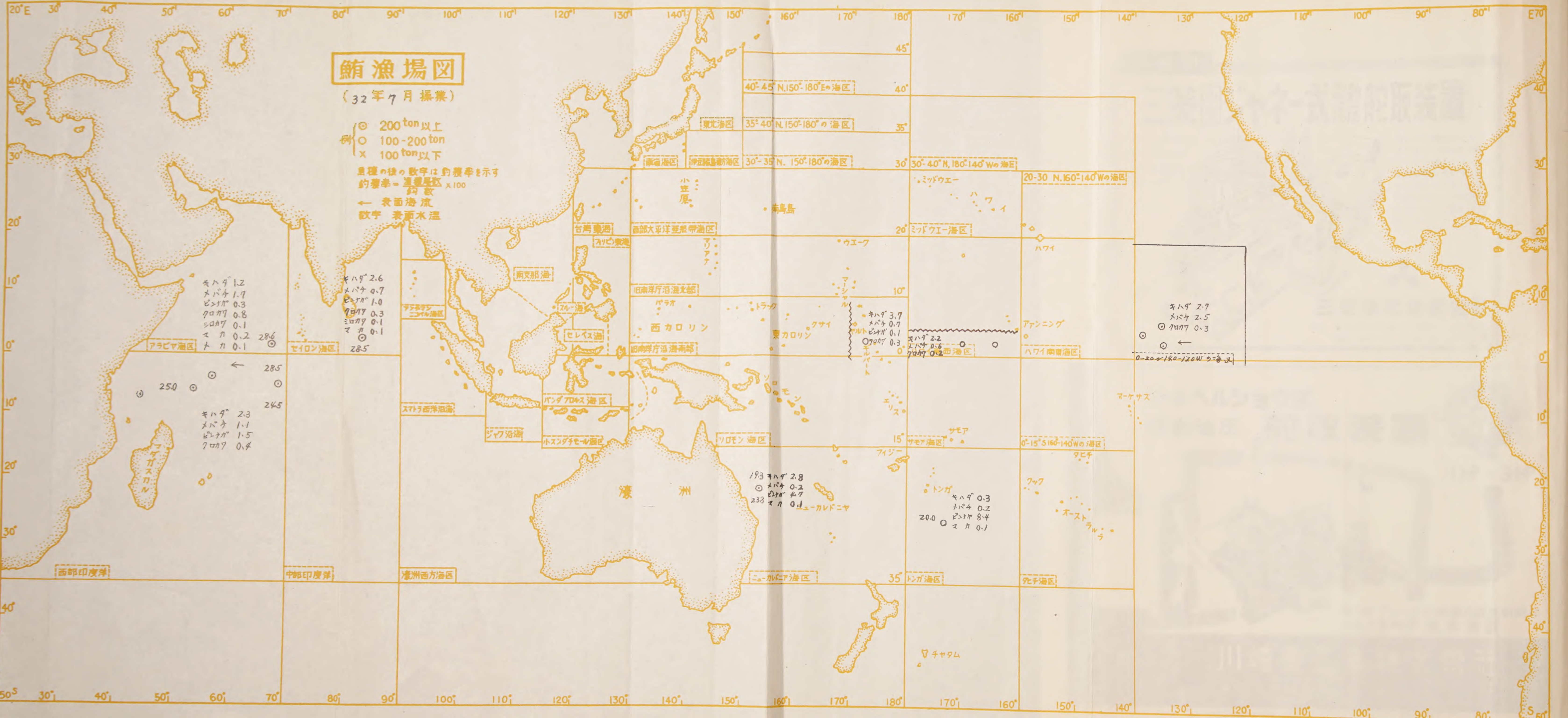


1HP～3HP

其の他 ディーゼル機関の排気利用に
よる小型船用 造水装置

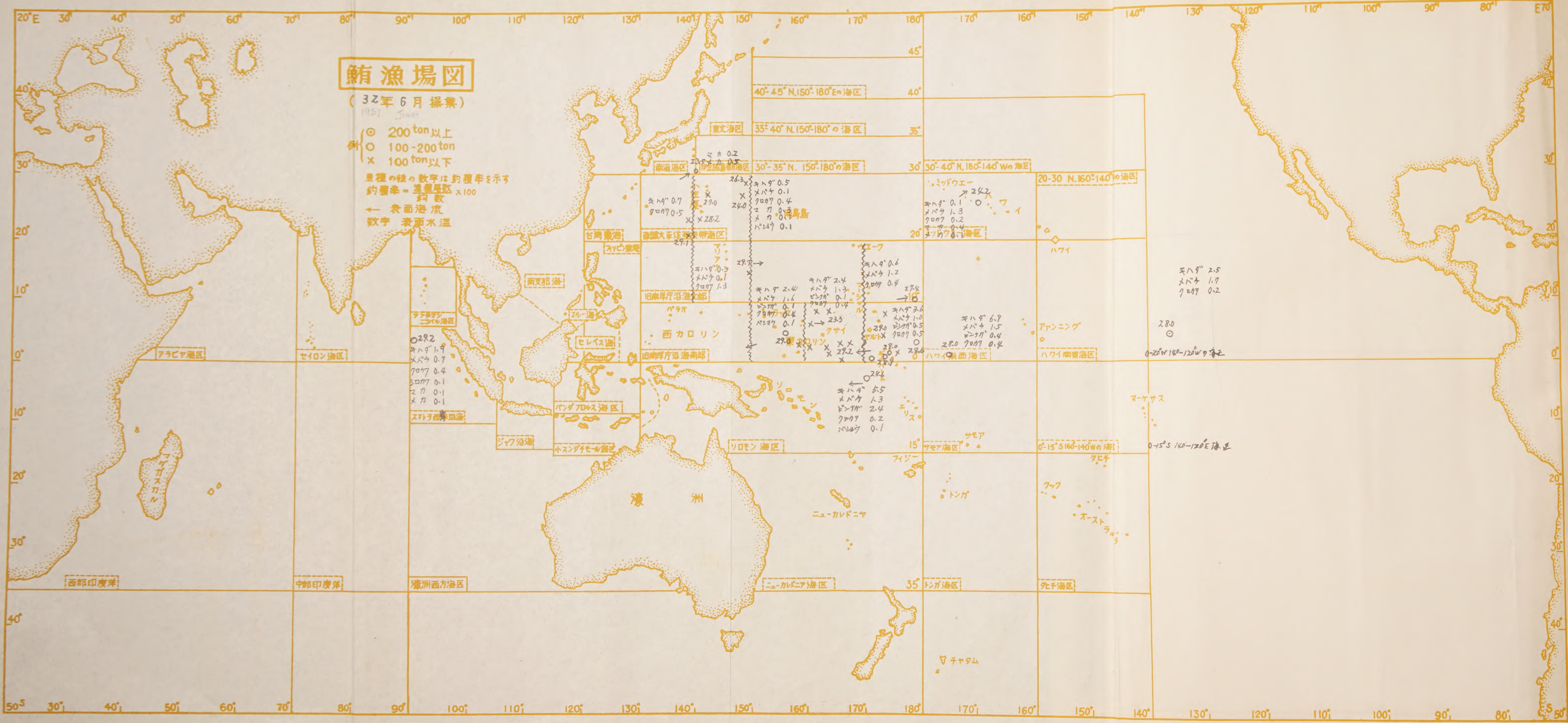
川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四（電）湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電)　(59)　6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）


鮪漁場図
（32年7月操業）
例
⊙ 200 ton 以上
○ 100-200 ton
× 100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数／釣数 ×100
← 表面海流
数字 表面水温
40-45°N.150°-180°Eの海区
35°-40°N.150°-180°の海区
30°-35°N. 150°-180°の海区
東北海区
南海海区
伊豆諸島南方海区
30°-40°N.180°-140°Wの海区
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー
ハワイ
ミッドウエー海区
南鳥島
小笠原
台湾東海
フィリピン東海
西部太平洋亜熱帯海区
マリアナ
ウエーク
南支那海
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
パラオ
トラック
西カロリン
東カロリン
クサイ
マーシャル
ギルバート
ヤルート
アンダマン・ニコバル海区
スルー海
セレベス海
バンダフロレス海区
スマトラ西岸沿海
ジャワ沿海
小スンダチモール海区
アラビア海区
セイロン海区
マダガスカル
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
濠洲
ソロモン
ソロモン海区
ニューカレドニヤ
ニューカレドニア海区
エリス
フィジー
サモア
サモア海区
トンガ
トンガ海区
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
アァンニング
0°-15°S 160°-140°Wの海区
タヒチ
タヒチ海区
クック
オーストラル
マーケサス
チャタム
0-20°N 140-120W の海区
キハダ 1.2
メバチ 1.7
ビンナガ 0.3
クロカワ 0.8
シロカワ 0.1
マカ 0.2
ナカ 0.1
28.6
キハダ 2.6
メバチ 0.7
ビンナガ 1.0
クロカワ 0.3
シロカワ 0.1
マカ 0.1
28.5
28.5
25.0
24.5
キハダ 2.3
メバチ 1.1
ビンナガ 1.5
クロカワ 0.4
キハダ 3.7
メバチ 0.7
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
キハダ 2.2
メバチ 0.6
クロカワ 0.2
キハダ 2.7
メバチ 2.5
クロカワ 0.3
19.3
キハダ 2.8
メバチ 0.2
ビンナガ 4.7
23.3
マカ 0.1
キハダ 0.3
メバチ 0.2
ビンナガ 8.4
マカ 0.1
20.0
20°E 30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150° 160° 170° 180° 170° 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80° E70
40° 30° 20° 10° 0° 10° 20° 30° 40° 50°S
45° 40° 35° 30° 20° 10° 0° 15° 35°

Digitized by the Internet Archive
in 2025

https://archive.org/details/tuna-fishing_1958_47


鮪漁場図
（32年6月操業）
1951 June
例
◎ 200 ton 以上
○ 100-200 ton
× 100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数/鈎数 ×100
← 表面海流
数字 表面水温
40°-45° N,150°-180°E の海区
35°-40° N.150°-180° の海区
30°-35° N. 150°-180° の海区
30°-40° N, 180°-140° W の海区
20-30 N.160°-140° の海区
東北海区
南西海区
伊豆諸島東方海区
西部太平洋亜熱帯海区
台湾東海
フィリピン東海
南支那海
スルー海
セレイス海
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
バンダ フロルス 海区
小スンダチモール海区
ジャワ沿海
スマトラ西岸沿海
アンダマン ニコバル海区
アラビヤ海区
セイロン海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
ソロモン 海区
ニューカレドニア海区
サモア海区
トンガ海区
タヒチ海区
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
ミッドウエー海区
0°-15°S 160°-140°W の海区
0-20°N 140-120°W の海区
0-15°S 140-120°E 海区
マダガスカル
濠洲
小笠原
マリアナ
南鳥島
パラオ
西カロリン
東カロリン
クサイ
マーシャル
ヤルート
ウエーク
ミッドウエー
ハワイ
アァンニング
ギルバート
エリス
ソロモン
フィジー
サモア
トンガ
ニューカレドニヤ
タヒチ
クック
オーストラル
マーケサス
チャタム
マカ 0.2
23.5 メカ 0.5
キハダ 0.7
クロカワ 0.5
27.0
28.2
29.1
26.3
24.0
キハダ 0.5
メバチ 0.1
クロカワ 0.4
マカ 0.3
メカ 0.1
バショウ 0.1
29.7
キハダ 0.3
メバチ 0.1
クロカワ 1.3
キハダ 2.4
メバチ 1.6
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.4
バショウ 0.1
29.0
キハダ 2.4
メバチ 1.3
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.4
23.3
29.2
キハダ 0.6
メバチ 1.2
クロカワ 0.4
27.4
キハダ 3.6
メバチ 1.0
ビンナガ 0.5
クロカワ 0.5
29.0
28.0
28.6
28.9
28.6
キハダ 5.5
メバチ 1.3
ビンナガ 2.4
クロカワ 0.2
バショウ 0.1
24.2
キハダ 0.1
メバチ 1.3
クロカワ 0.2
マカ 0.4
メカ 0.1
キハダ 6.9
メバチ 1.5
ビンナガ 0.4
28.0 クロカワ 0.4
キハダ 2.5
メバチ 1.7
クロカワ 0.2
28.0
29.2
キハダ 1.9
メバチ 0.7
クロカワ 0.4
シロカワ 0.1
マカ 0.1
メカ 0.1
20°E 30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150° 160° 170° 180° 170° 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80° E70
45° 40° 35° 30° 20° 10° 0° 10° 15° 20° 30° 35° 40° 50°S

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和32年6月現況）

三　崎　　鮪漁業研究会　（調査研究部）
　　　　　神奈川県水産試験場　（資源部鮪担當）
東京，焼津　南海区水産研究所　（遠洋資源部）

1　調査の概要

昭和32年6月の調査船数は少く、三崎2，東京30，計32で、そのうち体長測定調査実施船数は11，調査海区数は11であつた。

2　漁況の概要

（キハダ）

0°—20°N，140°—120°W の海区は好漁、ハワイ南西海区 5°N 以南は極めて好漁、旧南洋庁沿海北部の 140°—150°E は不漁、170°—180°E の海域は、本年2月と同程度の好漁である。一方、南部は、150°E から 180°E までの各海域ともおおむね好漁で、特に 170°—180°E では、極めて高率となり、ソロモン海区 0—5°S も同様に盛漁である。スマトラ西岸沿海は、1月から次第に低下して不漁となつている。

（メバチ）

0°—20°N，140°—120°W の海区は、この海区としては低率、ミッドウエー海区は不漁、ハワイ南西 5°N 以南では、4月の不漁から上昇が続き、北部太平洋漁場2海区も不漁、旧南洋庁沿海北部西方の 140°—150°E の海域は極めて不漁、170°—180°E の海域も不漁期であるが、西方よりはるかに高率である。旧南洋庁沿海南部は、一般に好漁で、東方よりも西方の漁場が高率となつている。ソロモン海区北部の 0°—5°S も好漁、スマトラ西岸沿海は不漁である。

（ビンナガ）

ソロモン海区北部におけるビンナガは、5月から急激に増加して、最盛期となつている。

（クロカワ）

0°—20°N，140°—120°W の海区は不漁、ハワイ南西海区 5°N 以南は、5月におおむね同様で、なお増加が見込まれ、西部太平洋亜熱帯海区 140°—150°E の海域は、好漁期で上昇中である。旧南洋庁沿海北部も好漁、南部も同様である。ソロモン海区では昨年秋季以來の低調な漁況が続いて、スマトラ西岸沿海では、好漁期であるにもかかわらず低率である。

（その他のカジキ類）

シロカワは各海区とも不漁、マカジキはミッドウエー、伊豆諸島東方海区、西部太

平洋亜熱帯海区140°—150°Eの海域で好漁である。メカジキは北部太平洋漁場で好漁をみている。

3　各海区の漁況

A．赤道以北140°W以東漁場

（0°—20°N, 140°—120°Wの海区）

海区南西部で1隻を調査した。この海区は、30年12月以來1年半ぶりに調査されたが、まだ資料に乏しく、漁況を確実につかめていない。

（キハダ）

この海区におけるキハダは、各季低率、夏季高率を示すようで29年8月と同率の2.50, 体長組成は、141—150cmにモードをもち、131—150cmのものが74%を占めている。

（メバチ）

資料が不充分である爲、はつきりした傾向は不明であるが、この海区のメバチは、秋季から各季高率、春季乃至夏季は比較的低率のようで、1.69を示して今迄の調査では最低率である。魚体は、大型が多く、161—170cmの山の他に、181cm以上にも更に大きい山がみられ、30年末に調査した組成とは、全く趣きを異にしている。

（クロカワ）

この海区のクロカワについても、その勢力の消長は、まだはつきりつかめないが、6月は0.15の率で不漁である。

体長組成をみると、181—190cmと211—220cmとに2つのモードがあつて中型が多く、30年末と同形である。

B．赤道以北180°—140°W漁場

（ミッドウエー海区、ハワイ南西海区）

6月の調査は、ミッドウエー海区北部およびハワイ南西海区南部において各1隻づつ実施した。

（キハダ）

ミッドウエー海区のキハダは相変らず貧漁、ハワイ南西海区5°N以南海域では、4月5月の4,0を越える高率が更に増加して6.93の盛漁である。体長組成をみると、ミッドウエー海区は、151—160cmの単一モードとなつて大型魚が多く、ハワイ南西海区5°N以南では、121—130cmのものが、60%以上に達している。

（メバチ）

ミッドウエーのメバチは、1月の高率から次第に低減を続けて不漁期に入つている。5°N以南では、5月0.92と恢復したメバチが、さらに増加して1.50に達し、この海区としては盛漁である。体長組成は、ミッドウエー海区においては、151—160cmの山は変らないが、小型魚が減じて中大型が増え、5°N以南は、測定尾数少く中型が多い。

（ビンナガ）

ミッドウエー海区は漁獲なく、ハワイ南西海区5°N以南の海域は、5月0.39, 6月

0.40と同率である。体長測定調査は実施出来なかつた。

（クロカワ、マカジキ）

ミッドウエーのクロカワは、5月0.09の低率から、6月は0.16と僅か上昇、ハワイ南西海区5°N以南は、この海区としての高率期に入つているが、釣獲率0.37で、5月0.40の率から増加しない。マカジキはミッドウエー海区北部で、0.35を示して好漁である。体長測定調査を実施したクロカワは少数であるが、組成はおおむね従来と同様である。ミッドウエーのマカジキは、131—140cmと171—180cmとに2つのモードがあり、5月と同形である。

C. 北部太平洋漁場

（伊豆諸島東方海区、西部太平洋亜熱帯海区）

伊豆諸島東方海区では、その南西隅で1隻、西部太平洋亜熱帯海区では、130°—140°Eの海域で2隻、140°—150°Eの海域で4隻が調査されている。

（キハダ）

本年2月の不漁から漸増して、5月0.42となつた西部太平洋130°—140°Eのキハダは、6月0.65を示して、なお増加の傾向をみせている。140°—150°Eの海域では、5月0.40から5, 6月0.24に低下したが、船による釣獲率の差が甚だしく、その率は0.04—0.78の範囲にわたつている。体長は僅か8尾を測定し、111—150cmの間に分布している。

（メバチ）

伊豆諸島東方海区、西部太平洋亜熱帯海区ともに、昨秋より漸減過程にあつたが、本年春季より不漁期に入り、極めて低率である。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

西部太平洋のクロカワは、初夏の上昇期にあり、7月8月と好漁が期待される。また、マカジキは、5月0.46の高率から6月0.24と低下したが、この海区としてはなお高く、130°—140°E 0.04よりも、140°—150°Eの海域は0.55ではるかに高い。140°—150°Eのマカジキも、船によつて釣獲率の差が大きく、1.44の高率を得ている船もある。メカジキは、140°—150°Eの海域で0.26を示し好漁である。マカジキは、140°—150°Eの海域では5月と同様に中小型が多く、161—180cmが50%を占めている。150°E附近のメカジキは、181—200cmが60.6%に達し、小型はみられない。

D. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、同南部）

旧南洋庁沿海北部では2隻、同南部では18隻を調査した。調査海域および海流については、漁場圖を參照のこと。

（キハダ）

南洋北部の西方は低率、東方漁場はやや高率、南洋南部は初夏の好漁をみているがやがて夏期の低減過程に入るようである。150°—160°Eの海域および160°—170°Eの海域は、ともに2.44の同率で、170°—180°Eの海域は3.59と極めて高率である。南洋南部170°—180°Eの海域においては、本年1月に3.0以上の好漁があり、5月6月

も例年にない異常な高率をみている。既に周知のように、この海区におけるキハダには、5°N 線を境界として、以南が以北より高率を示す傾向がある。(表 1 参照)

表 1. 舊南洋廳沿海南部における キハダの漁況 (32.6)

	150°—160°E	160°—170°E	170°—180°E
5°N以北	2.62	0.64	3.10
5°N以南	3.89	3.40	4.82

南洋北部および南部では、121—130 cm に体長組成の山があつて、4 月 5 月より大型になつている。

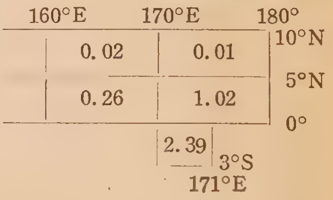
(メ　バ　チ)

南洋北部は、140°—150°E および 170°—180°E の海域ともに低率。170°—180°E では 2月 3月の高率期から減少を続けている。旧南洋庁沿海南部 170°E 以東では、4月 1.9 から 5月 0.6 と激減したが、6 月は 1.02 とやや恢復した。南部の 150°—160°E と 160°—170°E の海域においては、それぞれ 1.57, 1.34 で好漁である。体長組成は、北部、南部ともあまり変化ないが、南部海域では、小型魚が少くなつた。

(ビ　ン　ナ　ガ)

旧南洋庁沿海南部 170°E 以西は 0.1, 170°E 以東は 0.49 であるが、この海区としては高率で船による釣獲率の差が甚だしく、南部の 160°—180°E の海域からソロモン海区 0°—5°S にかけては、南寄りに高率である。（圖 1 參照）沿海南部の魚体は大型である。

図 1. 舊南洋廳沿海南部およびソロモン海区北部におけるビンナガの漁況 (32.6)



(ク　ロ　カ　ワ)

旧南洋庁沿海北部 170°E 以東の海域では、上昇高率期にあるが、6 月は 0.42 でまだ低い。170°E 以西は、1.25 で高率、同沿海南部 170°E 以西は北部 170°E 以東とほぼ同率 0.43 で、本年初め以來同程度の率を維持している。南部 170°E 以東では、0.49 で僅か高く、5 月から増加して、7 月以后夏季の高率期をむかえるものと思われる。南部の 150°E—180° の海域では、5°N以北の率が以南より高くなつている。(表 2)

体長組成を 4, 5月に比較すると、191—200cm にあつた第 2 の山が、201—210cm に移つたほかは変化なく、大型から小型まで廣い分布がみられる。

表 2. 舊南洋廳沿海南部における クロカワの漁況 (32.6)

	150°—160°E	160°—170°E	170°—180°E
5°N以北	0.67	0.84	0.73
5°N以南	0.52	0.34	0.32

E. ソロモン、ニユーカレドニア海区漁場

(ソ ロ モ ン 海 区)

この海区における調査船は、5°S 以北の 1 隻のみであつた。体長測定調査はできなかつた。

(キ　ハ　ダ)

ソロモン海区の 0°—5°S のキハダは、昨年12月の高率から本年 3 月まで低下を続け 4 月 4.8 と上昇、5 月は 4.4 でやや減じたが、6 月に至つて 5.53 と初夏の高率を示している。7 月からは低減過程に入るであろう。

(メバチ)

この海区は周年低率であるが、まだ不漁期とはならず、1隻のみの調査で、1.34と異常に高い釣獲率が得られている。

(ビンナガ)

29, 31年は、5月が好獲期の山であつたが、本年は、30年と同様に6月が高く、2.39の高率であつた。

(クロカワ)

この海区においては、クロカワも、周年大きな動きを見せず、6月は0.15で、昨年10月来、ほぼ同様の漁獲が續いている。

F. 東部印度洋漁場

(スマトラ西岸沿海)

スマトラ西岸沿海海区の北部海域で1隻が調査されている。この海区の魚体調査も実施できなかつた。

(キハダ)

スマトラ西岸沿海における本年のキハダの海況は、例年にくらべて低調で、本年1月以来漸減を続け、昨年あるいは一昨年のような4, 6月の高率が得られない。6月は1.89と低く、このまま、秋季の不漁期に入るのであろう。

(メバチ)

昨年11月以降、低下の一途をたどり、6月は低率期で極めて不漁、釣獲率0.9に過ぎない。夏季には漸増を開始し、秋から好漁に向うものと推察される。

(ビンナガ)

この海区のビンナガは不漁期で、ほとんど漁獲されていない。

(クロカワ)

クロカワは、春から夏にかけての、この海区においては好漁であるが、本年の調査では低調で、4月とほぼ等しく6月0.41を示している。

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	水温 (C°)	流向流速	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
0°— 20°N 140°—120°W	3°— 5°N 138°—135°W	1	27.5 28.5		18	7,300	34,600	尾数 %	866 2.50	585 1.69
ミッドウエー	26— 28N 175—162W	1	22.9 25.4		24	8,581	34,324		16 0.05	441 1.28
ハワイ南西 (5°N 以南)	2— 3N 176—175W	1	28.6 29.0		11	3,960	15,840		1,098 6.93	237 1.50
伊豆東方	30— 31N 140—141E	1	21.1 25.8		18	3,677	29,416		1	6 0.02
西部太平洋	21— 29N 138—150E	6	21.6 29.2		101	28,869	112,421		439 0.45	100 0.08
南洋北部 (170°E以東)	9— 13N 175—180E	1	26.5 27.8		22	8,560	42,800		272 0.64	528 1.23
南洋北部 (170°E以西)	14— 15N 149—150E	1	28.9 30.5		12	3,060	12,240		31 0.25	17 0.14
南洋南部 (170°E以東)	1— 10N 168—180E	7	26.6 29.6		103	37,896	164,811		5,893 3.59	1,667 1.02
南洋南部 (170°E以西)	1— 10N 156—170E	11	26.8 29.7		172	57,683	237,763		5,804 2.44	3,289 1.46
ソロモン	1— 3S 170—171E	1	28.2 29.4		14	5,009	20,036		1,108 5.53	269 1.34
スマトラ沿岸	3— 4N 90— 94E	1	28.8 29.6		23	8,740	34,960		659 1.89	242 0.69
合計	11	32			519	173,335	738,581		16187 2.19	7381 1.00

(昭和32年6月操業分)

(別表 1)

ぐ	ろ		か	じ	き			かつを	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
			52 0.15	5 0.01	4 0.01	12 0.03					1524 4.40	鮫未調査隻数 体長測定隻数
			55 0.16	2	119 0.35	16 0.05			4 0.01		653 1.90	
64 0.40			58 0.37	4 0.02	2 0.01	1 0.01	1 0.01				1465 9.24	
	1		9 0.03		62 0.21	143 0.49			14 0.05	412 1.40	648 2.20	
7 0.01			365 0.36		429 0.28	203 0.14	130 0.13		476 0.39	1191 0.93	3340 2.78	
3 0.01		5 0.01	178 0.42	3 0.01	8 0.02	7 0.02	10 0.02		11 0.03	2	1027 2.40	
1 0.01			153 1.25	1 0.01	3 0.02	1	12 0.10	10 0.08	88 0.72	212 1.73	529 4.32	
811 0.49			805 0.49	17 0.01	5	18 0.01	21 0.01	40 0.02	12 0.01	118 0.07	9407 5.73	6 3
173 0.08			1026 0.43	47 0.02	9	20 0.01	43 0.04	26 0.02	103 0.04	135 0.13	10675 4.67	9 2
479 2.39			30 0.15	1	4 0.02	7 0.03	14 0.07	1	42 0.21	204 1.02	2159 10.78	
9			146 0.41	16 0.05	22 0.06	18 0.05	5 0.01		1		1118 3.20	
1547 0.21	1	5	2877 0.39	96 0.01	667 0.09	446 0.06	236 0.03	77 0.01	751 0.10	2274 0.31	32545 4.41	15 5

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年6月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		50 cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上	計	漁獲尾数
きはだ	1	0°—20°N 140°—120°W	3°—5°N 138°—135°W	18	尾数 %						2 1.9	1 1.0	2 1.9	11 10.6	24 23.1	53 51.0	10 9.6		1 1.0	104 100	866
	1	ミッドウエー	26—28N 175—162W	24											3 18.8	1 6.3	6 37.5	3 18.8	3 18.8	16 100	16
	1	ハワイ南西 (5°N以南)	2—3N 176—175W	11									6 4.7	81 63.3	30 23.4	9 7.0	1 0.8		1 0.8	128 100	1098
	1	西部太平洋	27—29N 147—150E	17									2 25.0	4 50.0	1 12.5	1 12.5				8 100	11
	1	南洋北部 (170°E以東)	9—13N 175—180E	22							2 1.2	2 1.2	26 15.3	108 63.5	21 12.4	9 5.3	2 1.2			170 100	272
	3	南洋西部 (170°E以東)	1—4N 170—179E	47								8 1.7	38 8.1	214 45.7	119 25.4	74 15.8	11 2.4	4 0.9		468 100	3626
	2	南洋南部 (170°E以西)	1—10N 161—166E	30							9 5.1	24 13.5	60 33.8	70 39.5	12 6.8	2 1.1				177 100	622

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
めばち	1	0°—20°N 140°—120°W	3°—5°N 138°—135°W	18						1 1.8	5 9.1	1 1.8	1 1.8	3 5.5	5 9.1	8 14.5	9 16.4	6 10.9	16 29.1	55 100	585
	1	ミッドウエー	26—28N 175—162W	24								6 9.8	9 14.8	2 3.3	9 14.8	22 36.1	5 8.2	7 11.5	1 1.6	61 100	441
	1	ハワイ南西 (5°N以南)	2—3N 176—175W	11					1 2.7		8 21.6	2 5.4	8 21.6	5 13.5	7 18.9	4 10.8	1 2.7	1 2.7		37 100	237
	1	西部太平洋	27—29N 147—150E	17						1 4.0	7 28.0	3 12.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	5 20.0	1 4.0	1 4.0		25 100	31
	1	南洋北部 (170°E以東)	9—13N 175—180E	22						1 0.4	15 6.6	41 17.9	23 10.0	30 13.1	33 14.4	54 23.6	22 9.6	7 3.1	3 1.3	229 100	528
	3	南洋南部 (170°E以東)	1—4N 170—179E	47					1 0.7	2 1.4	43 29.1	18 12.2	12 8.1	30 20.3	23 15.5	18 12.2		1 0.7		148 100	790

	2	南洋南部 (170°E以西)	1—10N 161—166E	30		1 0.6			3 1.9	8 5.2	72 46.5	16 10.3	10 6.5	16 10.3	16 10.3	11 7.1	2 1.3	1		155 100	562

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上			計	漁獲尾数
びんなが	1	南洋南部 (170°E以東)	1°—4°N 170°—179°E	20	尾数 %							4 66.7	2 33.3					6 100	10
	1	南洋南部 (170°E以西)	1—3N 161—166E	15							1 20.0	2 40.0	2 40.0					5 100	5

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾数
くろかわ	1	0°—20°N 140°—120°W	3°—5°N 138°—135°W	18	尾数 %				1 4.2	3 12.5	2 8.3	5 20.8	1 4.2	4 16.7	6 25.0	1 4.2	1 4.2				24 100	52
	1	ミッドウエー	26—28N 175—162W	24									4 12.9	3 9.7	4 12.9	10 32.3	3 9.7	5 16.1	1 3.2	1 3.2	31 100	55
	1	ハワイ南西 (5°N以南)	2—3N 176—175W	11				1 3.0		8 24.3	1 3.0	1 3.0	8 24.3	8 24.3	2 6.1	1 3.0	1 3.0		1 3.0	1 3.0	33 100	58
	1	西部太平洋	27—29N 147—150E	17					1 6.7	2 13.3		1 6.7	5 33.3	3 20.0	1 6.7		1 6.7	1 6.7			15 100	15
	1	南洋北部 (170°E以東)	9—13N 175—180E	22			1 1.3	1 1.3	8 10.7	34 45.3	9 12.0	6 8.0	5 6.7	3 4.0	4 5.3	1 1.3		1 1.3	1 1.3	1 1.3	75	178
	3	南洋南部 (170E°以東)	1—4N 170—180E	47		1 1.1	5 5.7	10 11.4	5 5.7	12 13.6	8 9.1	5 5.7	9 1.0	12 13.6	8 9.1	4 4.5	5 5.7	1 1.1		2 2.3	88 100	257
	2	南洋南部 (170°E以西)	1—10N 161—166E	30		7 5.0	10 7.1	26 18.6	29 20.7	32 22.9	6 4.3	4 2.9	6 4.3	9 6.4	1 0.7	5 3.6	2 1.4		1 0.7	2 1.4	140 100	156

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾数
しろかわ	1	ミッドウエー	26°—28°N 175°—162°W	24							1 50.0									1 50.0	2 100	2
	1	南洋北部 (170°E以東)	9—13N 175—180E							1 33.3		1 33.3				1 33.3					3 100	3
	2	南洋南部 (170°E以東)	1—4N 170—179E	34						1 25.0	1 25.0							1 25.0		1 25.0	4 100	4

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	南洋南部 (170°E以西)	1— 3N 161—166E	15	尾数 %			1 50.0	1 50.0												2 100	2
まかじき	1	ミッドウエー	26°— 28°N 175°—162°W	24					5 6.8	15 20.3	2 2.7	5 6.8	11 14.9	17 23.0	14 18.9	4 5.4	1 1.4				74 100	119
	2	西部太平洋	25— 29N 142—150E	30			6 3.4	20 11.2	11 6.2	54 30.3	37 20.8	31 17.4	6 3.4	11 6.2	1 0.6	1 0.6					178 100	239
	1	南洋北部 (170°E以東)	9— 13N 175—180E	22								1 12.5	2 25.0	1 12.5	4 50.0	2 25.0					8 100	8
	1	南洋南部 (170°E以西)	1— 3N 161—166E	15		4 100															4 100	4

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
めかじき	1	ミッドウエー	26°— 28°N 175°—162°W	24	尾数 %							1 7.1	1 7.1		1 7.1		2 14.3	3 21.4	6 42.9	14 100	16
	1	西部太平洋	27— 29N 147—150E	17							2 6.1	14 42.4	6 18.2	3 9.1	3 9.1	3 9.1	2 6.1			33 100	133
	1	南洋北部 (170°E以東)	9— 13N 175—180E	22					1 14.3			2 28.6	1 14.3		1 14.3		1 14.3		1 14.3	7 100	7
	1	南洋南部 (170°E以西)	1— 3N 161—166E	15						1 20.0		2 40.0						1 20.0	1 20.0	5 100	5

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

(昭和32年7月現況)

1 調査の概要

昭和32年7月分として調査した鮪延縄船数は、三崎11, 東京3, 計14で著しく少くなつて居り、体長測定船は僅かにセイロン海区の1隻、調査海区数も少数で9にとどまつた。

2 漁況の概要

(キハダ)

0°—20°N, 140°—120°Wの海区は6月に続いて好漁、ハワイ南西海区5°N以南は先月より激減したが、これは調査船2隻のうち1隻の不漁によるもので、トンガ海区も不漁、旧南洋庁沿海南部170°—180°Eの海域とニューカレドニア海区は好漁であるがセイロン海区は5月の高率から減少してこの海区としては不漁となつた。アラビア海区のキハダは、西部印度洋海区とともに不漁期にある。

(メバチ)

0°—20°N, 140°—120°Wの海区では、先月より増加したが、なおこの海区としては不漁で、ハワイ南西5°N以南は6月から減少して不漁となり、南洋南部170°—180°Eの海域は不漁、アラビア海区のメバチは4月より増えて好漁である。

(ビンナガ)

トンガ海区においては著しい好漁が得られ、ニューカレドニア海区も好期である。西部印度洋海区では、不漁期に入りつつある。

(クロカワ)

0°—20°N, 140°—120°Wの海区は6月と同じく不漁、ハワイ南西海区も同様で、他の諸海区においても見るべき漁獲はなく、僅かにアラビア海区においてやや好漁をみているに過ぎない。

3 各海区の漁況

A. 赤道以北140°W以東漁場

(0°—20°N, 140°—120°Wの海区)

この海区における調査船は3隻で、先月にひき続き海区南西部で操業している。この海域では、南赤道流が西流している。

(キハダ)

6月の2.50よりやや増加して7月は2.71を示し、好漁の盛期にあるものと思われる。

（メバチ）

6月 1.69 の低率から増加して2.47となり、なお上昇がみこまれる。調査した3隻はそれぞれ1.64, 2.19, 3.40と異なつた釣獲率を得ている。

（クロカワ）

6月と同様に極めて不漁で0.27の低率である。

B. 赤道以北 180°—140°W 漁場

（ハワイ南西海区）

同海区 5°N 以南 160°W—170°W の海域で2隻を調査した。

（キハダ）

6月 6.93 の著しい高率から2.22と急激に減少したが、前述したように、これは、調査船1隻の不漁によるもので、他の1隻は、3.76の高率で、この海区における6月7月の好漁を示している。

（メバチ）

この海域のメバチは、全般的に低率であり、6月 1.50 は、この海区としては高率であつたが、7月に入つては0.63と減少した。

（クロカワ）

この海域にては、クロカワも周年高い率を示さず、5月 0.40, 6月 0.37, 7月 0.19 でより低率となつている。

C. 赤道以南 180°—140°W 漁場

（トンガ海区）

海区中部の西方で一隻が調査された。

（キハダ）

この海区のキハダも全般に低率で、昨年12月、本年3月にはそれぞれ0.91, 0.93を示し、7月は0.31と極めて低率であつた。

（メバチ）

この海区におけるメバチは、現在迄の調査では、釣獲率0.5程度が高率で、7月は0.22の率であつた。

（ビンナガ）

本年3月の調査では、3.6を示し、低下するものと思われたが、7月には8.42と著しい高率になつている。

D. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海南部）

7月は北部太平洋漁場には調査船なく、旧南洋庁沿海漁場においても、沿海南部170°E以東の1隻を調査するにとどまつた。

（キハダ）

旧南洋庁沿海南部 170°—180°E の海域では、本年1月および5月 6月にひき續いて3.69の異常な高率である。

(メバチ)

5月より0.5—1.0前后の率が続き、7月も0.72の低率となつている。

(クロカワ)

旧南洋庁沿海南部5°N以南170°—180°Eの海域における6月のクロカワは0.32で沿海南部では最低率を示していたが、この海域においては、7月の調査結果も、0.31と同率で、本年1月以来同様の釣獲率が續いて、未だ夏季の増加の傾向があらわれない。

E. ソロモン、ニューカレドニア海区

(ニューカレドニア海区)

この海区における7月の調査は、ニューカレドニア島北西方海域の1隻であつた。

(キハダ)

冬季から春季えかけての漁期を過ぎ、低率が期待されたが、7月は2.78の高率で、昨年8月とほぼ同率を示し、一昨年までの周年變化と著しく異つている。

(メバチ)

この海域のメバチは、周年低調であるが、7月は0.20で、これが昨年のように、夏季のうちに異常な高率を示すかどうか注目される。

(ビンナガ)

好漁期となり、4.74の高率を示している。9月まで漸次低減するであろうが、なお好漁が期待される。

(クロカワおよびその他のカジキ類)

クロカワは、この海区における最低率を示して、0.03と極めて低く、シロカワも秋季までは低調、マカジキもまだ不漁である。

F. 中部印度洋漁場

(セイロン海区)

セイロン海区では、セイロン島南東方からスマトラ西岸沿海北部にかけて操業した1隻が調査されている。7月の体長測定調査は、この1隻についてのみ實施した。

(キハダ)

昨年および一昨年と異なり、本年のこの海区におけるキハダは3月2.8の率から月ごとに増加して、5月は、海区北東部で6.70の高率となつたが、7月は、2.62と減少を見せ、増減の差が甚だしい。6月141—150cmの範圍にみられた体長組成の山は、7月131—140cmに移つて、これが53.8%を占めている。

(メバチ)

セイロン海区におけるメバチは、5月と同率0.67を示し、例年の季節的変化と、ほぼ同じ傾向である。体長測定尾数は少なかつたが、81—160cmの間に分布し、101—110cmのものが30.4%であつた。

(ビンナガ)

この附近のビンナガは、周年低率であるが0°—1°Nの海域にての操業が多かつたため7月は1.02となつて、この海区としては高率になつた。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは、7月0.33で5月と同様に低く、小型魚が多く測定されている。マカジキは、4月の最高率0.6から5月0.3, 6月0.08と不漁期になつた。

G. 西部印度洋漁場

（アラビア海区、西部印度洋海区）

アラビア海区においては、5°N以南、66°E以東の南東部で操業した1隻を調査し、西部印度洋海区では、その北部海域一帯で操業した4隻を調査した。アラビア海区南部の海流は、西流するものと東流するものとがぶつかつているようで、西部印度洋海区北部では、西流する南赤道流の勢が強く、この南赤道流は、同海区北西部でアフリカ大陸に當つて、モザンビク海峡およびマダガスカル島東方を南下している。

（キハダ）

アラビア海区は、4月の高率4.5から激減して1.24となつた。これは、この海区としては初めての甚だしい低率で、春季高く夏季から秋季に低くなる傾向は、昨年からあらわれ始めたものである。西部印度洋海区北部海域も低率期にあり、2.34とこの海区としては極めて低い釣獲率を示すに至つた。

（メバチ）

アラビア海区のメバチは、4月の不漁から7月1.74と好漁期に入り從來と同様の変化を示している。西部印度洋海区においても1.10と高く好漁期に入つて、10〜11月頃まで、1.00以上の率が続くものと思われる。

（ビンナガ）

アラビア海区は、春の高率期を過ぎて漁況は低調、0.29で全く低率である。西部印度洋海区も、4月の高率から減じているが、1.50を示して、昨年および一昨年同期よりは高い。

（クロカワ）

クロカワは、アラビア海区において夏季の高率を示し、4月の低率から、7月0.85と増加している。西部印度洋海区は、アラビア海区のように、はつきりした増減の傾向があらわれず、3月からほぼ同率を示して、7月は0.37であつた。

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	流向 流速	水温 (C°)	操業回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
0°— 20°N 140°—120°W	2°— 7°N 140°—126°W	3			102	39,840	199,200	尾数 %	5,395 2.71	4,915 2.47
ハワイ南西 (5°N 以南)	2— 4N 173—160W	2			52	29,288	146,440		3.248 2.22	924 0.63
トンガ	26— 28S 174—171W	1	18.8 21.6		29	10,140	40,560		125 0.31	90 0.22
南洋南部 (170°E以東)	3— 5N 171—174E	1			17	6,960	25,840		954 3.69	187 0.72
ニューカレドニア	20— 27S 154—159E	1	19.3 23.3		20	7,900	31,600		879 2.78	63 0.20
セイロン	0— 8N 82— 95E	1	27.8 29.0		19	8,677	34,708		910 2.62	233 0.67
アラビア	0— 4N 66— 70E	1	28.2 29.1		41	17,160	68,640		853 1.24	1,197 1.74
西部印度洋	3N— 13S 42— 75E	4	23.7 29.2		89	36,260	153,040		3,583 2.34	1,689 1.10
合計	9	14			369	156,225	700,028		15947 2.28	9298 1.33

(昭和32年7月操業分)

（別表 1）

ぐ	ろ		か	じ		き		かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
			536 0.27	49 0.02	15 0.01	50 0.03	2 0.00	1 0.00	197 0.10		11,160 5.60	鮫未調査隻数3 体長測定隻数0
1 0.00			273 0.19	23 0.02		17 0.01	7 0.00	9 0.01	21 0.01		4,523 3.09	2 0
3,417 8.42			2 0.00	1 0.00	27 0.07						3,662 9.03	1 0
34 0.13			80 0.31	4 0.02			3 0.01		121 0.47		1,383 5.35	1 0
1,498 4.74			11 0.03	3 0.01	42 0.13	7 0.01					2,503 7.92	1 0
353 1.02			114 0.33	42 0.12	28 0.08	10 0.03	22 0.06		37 0.11		1,749 5.04	1 1
199 0.29			586 0.85	37 0.05	109 0.16	74 0.11	9 0.01		4 0.01	109 0.16	3,177 4.63	0 0
2,300 1.50			570 0.37	63 0.04	107 0.07	75 0.05	41 0.03		215 0.14	507 0.33	9,150 5.98	2 0
7,802 1.11			2,172 0.31	222 0.03	328 0.05	233 0.03	84 0.01	10 0.00	595 0.08	616 0.09	37307 5.33	11 1

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年7月操業分）

（別表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm 以上	計	漁獲尾数
きはだ	1	セイロン	0°— 8°N 82°— 95°E	19	尾数 %									14 13.2	57 53.8	33 31.1	2 1.9			106 100	910

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
めばち	1	セイロン	0°— 8°N 82°— 95°E	19						1 4.3	6 26.1	7 30.4	3 13.0	2 8.7	1 4.4	2 8.7	1 4.4			23 100	233

魚種	測定船數	漁場	操業海域	操業回數	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
くろかわ	1	セイロン	0°— 8°N 82°— 95°E	19	1 3.1		6 18.8	4 12.5	7 21.9	7 21.9	2 6.3	1 3.1			2 6.3	1 3.1	1 3.1			32 100	114

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
しろかわ	1	セイロン	0°— 8°N 82°— 95°E	19		1 50.0					1 50.0									2 100	42

魚種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾數
まかじき	1	セイロン	0°— 8°N 82°— 95°E	19									1 50.0		1 50.0					2 100	28

鮪類標識放流について

◎ 昭和33年1月1日から2月15日迄に標識の委託をなした船数は1隻（10本）である。

月日	委託船名	標識番号
2.12	房総丸	×0031 —×0040

◇ 米政府原子力委員会が二月十四日発表した太平洋エニウエトク環礁附近で行う核爆発実験のため四月五日以降の立入り禁止區域は次の通りである。

☆北緯一八度三〇分、東経一五六度　☆北緯一八度三〇分、東経一七〇度　☆北緯一一度三〇分、東経一七〇度　☆北緯一〇度一五分、東経一五六度　☆北緯一一度三〇分、東経一六六度一六分

緑星社のSV型ラジオブイ

用途；鮪延繩・鮭鱒流網・捕　鯨・底曳トロール

漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社　緑星社

代表取締役　吉田内次

研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）

電話（54）2371番

營業所　東京都中央区小田原町2の11　電話（54）1797(代) 1798

函館出張所　函館市根崎町140番地　電話（函館）5802番

大西洋の鮪漁業操業実績について

神奈川県水試相模丸船長　若生光一

（鮪漁業講演会講演要旨　1958.1.13）

表面水温は太平洋、印度洋に比し極めて低い。従ってキハダの漁獲が懸念されたが操業したところかなり漁獲され、問題はなかった。

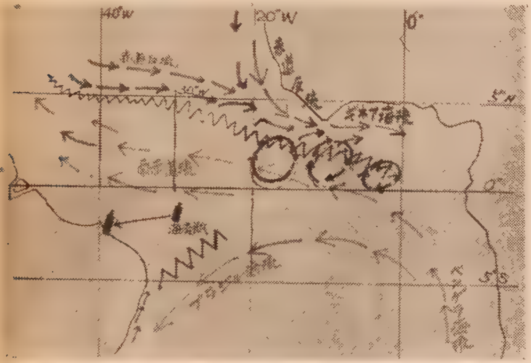


図 1.　大西洋赤道付近の海流

相模丸が調べた水温垂直分布と従来の報告とから図1のような海流が推定された。

鮪の漁況が海流域によって異ることは周知のところである。そこで、相模丸及び他船の1年間の報告を海流域、月毎にまとめて漁況を算出すると図2のようになる。

（キハダ）

赤道反流30° W以西海域（以下海域Aと呼ぶ）は3～5月が好漁期で釣獲率10.0%、南赤道流30° W以西海域（以下海域Bと呼ぶ）は6～9月が好漁期で釣獲率7.5%，ブラジル海流域（以下海域Cと呼ぶ）は2～4月が不漁期であったが、6～9月が釣獲率8.0%位の好漁期と推察される。赤道反流30° W以東海域（以下海域Dと呼ぶ）及びギネア海流域（以下海域Eと呼ぶ）は3～7月に釣獲率9.0～14.0%と非常に漁獲されたが漁況は不明である。

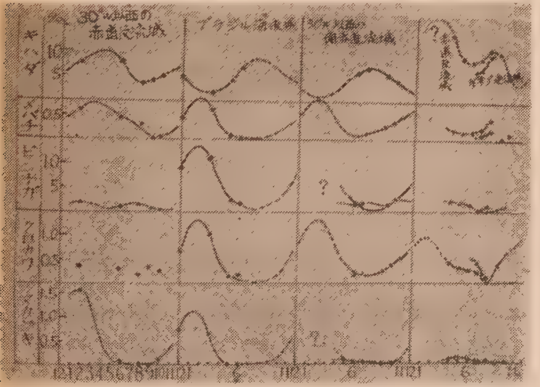


図 2.　海流域別漁況

又、魚体は平均20〆、最低15〆、最高28〆程度で、太平洋、印度洋に比較して極めて大きい。

（メバチ）

全般的に漁獲はあまり高くない。体長組成は9〆と25～26〆付近とに二つの山がある。肉質は良い。海域Cで1～3月に19～20〆の魚体が釣獲率0.6と比較的漁獲された。

（ビンナガ）

海域Cで1～3月に6～7〆の魚体が釣獲率10.0%と非常に漁獲された。同海域は5～10月にかけて不漁となる。海域A、D及びEは周年低調、Bは6～10月と不漁であったが、1～3月は不明である。

（クロカワ）

1～3月に海域Cで1.0%以上の好漁であったが魚体が小さく、市場価値としては良くない。海域A、Bも魚体が小さく同様である。

（マカジキ）

全般的に魚体は小さく6～7〆、海域Aで1～3月に釣獲率1.5%で漁獲された魚体の中には25〆平均の魚体が出現した。海域Cでも1～2月に釣獲率1.0%近くまで漁獲されたが、これは5～6〆で、あまりよい漁場ではなかった。

（その他の知見）

キハダをねらう時は1～6月に20° W以東、8～10月に30° W以西におもむくのがよい。猶、30° W以西の5°～7°N付近が好漁場で5°N以南は潮が早過ぎ、7°N以北は漁獲が落ちる。概して、キハダは0°～4°Nの水帯に分布し、南北の範囲がせまい。又、アマゾン河の河口付近から400マイル沖までは海がにごっており、漁獲はなかった。

本まぐろは40～60〆位の魚体が一時出現する。

ブラジル東部沿岸に早い上り潮がみられるが、漁況とは関係はないであろう。シャチは多いが多きな被害

はなかった。

漁獲は凡そ1週間位で落ちることが多く、4．5日待つか漁場を変えると又、漁獲が上る。

気象はたいして心配ないが、1～4月は雨季で、連日風力5～6の風が吹く。各水深の水温は表面が25°Cの時100mで20.5°C、150mで14.5°C、200m以下が11.0°Cである。

キハダは東も西も型が大きく、小型が大量にいることはなかった。

ビンナガは0°付近にも多少は出現する。

キハダ、メバチは大きさが異るのみで他の外部形態は同じである。クロマグロは産卵すぎるらしくやせている。マカジキは非常に小さく、太平洋、印度洋のマカジキと同種であるかどうか疑わしかった。

（陸上調査）

ブラジル……牛肉、鶏肉が主で、魚は沿岸物のみである、水揚時はトラックで運んで冷蔵庫へ入れ、残りは、小売業者が直接買いに来る。料理法は油いためが殆んどである。缶詰は製造出来ないので輸入している。従って、今後、船のみでなく、加工施設も一緒に持って行かないと、船が大量に入港した時は困るであろう。冷蔵庫が少いので、あいている時はよいが、あいていないと冷蔵庫がわりに使われる。しかし、政府も次第に熱をもって来てバイアーでは最後に入港した時は立派な冷蔵庫が出来上っていた。野菜、食糧の物価は日本の1.5倍、米はあるが慣れないとおいしくない。サンパウロには日本米に似た米がある由だが、鉄道が発達していず、空路で運搬するため割高となる。

イタリー……マグロ漁業は行われているが、延繩漁業をやろうと思っていないようである。魚をよく食べるし、料理法もいろいろある。トロール船も持ち、300～400屯の冷蔵庫も持っている。凡そ3日で水揚げを終る。

殆んどが缶詰の原料で、クロマグロがたりなくてノルウェーから貨車で輸出している。カジキ類は地中海の不漁期に魚屋に出すのみである。缶詰の原料が殆んどなのでキハダのみを好む。

船体修理費は高く、聞くところによると日本の3～5倍である。

氷はあるが製氷と冷蔵が分かれており、町の真中にあるため、運賃、人夫賃等が加わり、屯当り10,000円位となり高い。餌はイワシ、小サバ等があるが大量には得られないので、契約してとっておいてもらわなくてはならない。

漁船には専門メーカーの
穂高の漁業無線機を

★ 最新の技術と堅牢・高性能を誇る

500W
250W
150W
120W
75W
50W
35W
25W
10W

穂高通信工業株式会社

本社 東京都新宿区下落合1—6 TEL（95）2595・6219
大阪営業所 大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル TEL（44）5792・4109
東京工場 東京都新宿区下落合1—6 TEL（95）2595・6219
長野工場 長野県南安曇郡穂高町2579 TEL（穂高）61
代理店 小樽・函館・八戸・気仙沼・石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子・三崎・清水・焼津・室戸・下関

業界メモ

1958年1〜2月

1 月7日 **光照丸ジヤカルタへ連行**

静岡県田子水産遠洋漁協組光照丸（260トン）は1月4日午後4時頃スンダ海峡を北上中ノッサン島南東8カイリの洋上でインドネシヤ監視船に停船を命じられ5日ジャカルタ港に連行されたが領海侵犯の容疑らしい．（港報）

1 月13日 **マグロ漁業講演会**

本会では1月13日三浦市岬陽館でマグロ漁業講演会を開催した．講師と演題は神奈川水試場長永井三夫氏のマグロ延縄漁具の改良について，三重大学教授川本信之氏の魚類特に鰹鮪の感覚について，相模丸船長若生光一氏の大西洋鮪漁業操業の実績についてであった．講演内容は要約して本誌へ掲載する．（若生船長分は本号掲載）（港報）

13日 **大西洋漁場へ向う鮪漁船**

事代漁業ＫＫ第15事代丸（700トン）は1月14日三崎を出港大西洋に向ったが同船は2年間にわたりイタリア国ベニスを基地として操業する．又，昨年末優秀な成果をあげて帰った柳下漁業ＫＫ第13海幸丸（352トン）も2ヵ月有余の船体機関の修理を了えて1月9日再度大西洋漁場（基地ブラジル）に向って勇躍出漁した．（港報，北極星）

1 月20日 **マグロに血液型—漁場発見に威力**

南海区水研，鈴木，清水両技官のマグロの血液型についての共同研究が実を結び今春東京で開かれる日本水産学会で発表される．血液型は人間の場合は人類学にも広く応用されるがマグロの場合も各漁場の魚の種類，魚群相互の交流状態はもとより漁業資源を推定する際にも活用され新漁場発見と長期漁況予報に大きな役割を果すものと注目される．（朝日）

1 月30日 **ブラジルの日冷々蔵庫6月には完成**

大型マグロ漁船は相次いで大西洋に出漁しているが日本冷蔵ＫＫでは大西洋漁場の開発を図るため昨年11月からブラジル国レシヘエに日本から資材を送って冷蔵庫を建設中であったが工事も進みおそくも6月までには完成する．（港報）

1 月31日 **近海マグロにミューロン延縄を使用**

神奈川県沿岸指導船江の島丸（40トン）は2月5日三崎を出港，房総沖から伊豆七島周辺の近海マグロ延縄調査中であるが新製品ミューロン延縄（大日本紡原糸市川漁網製造）を使用しての成果が期待されている．（港報）

2 月6日 **マグロの腐敗防止に魚艙を酸素消毒**

東海大学水研では次亜塩素酸ソーダの10％溶液をさらに百倍から五百倍に薄めたものを噴霧器又はポンプで魚艙内にまんべんなくかけると酸素の殺菌作用で魚艙を5〜10分で殆んど無菌状態にするこの方法は害は全くなく遠洋マグロの鮮度を保ちいやな腐敗臭（バイ菌による）を防ぐのに極めて効果のあることをつきとめた．経費は1回1〜2万円であるがこれにより1航海2〜300万円の増収が見込まれる筈であると．（読売）

2 月9日 **三崎港所属鮪漁船のトン数別各年別漁獲高統計**

マグロ漁船の増加と大型化により南太平洋のマグロ漁は数年前より行詰りインド洋大西洋へと進出したが，このほど神奈川水試でまとめた三崎魚市場水揚鮪漁船のトン数別各年別漁獲高の統計によると昭和31年から32年にかけてはインド洋漁場（主として400トン以上）の漁獲高は下り坂であるが南太平洋漁場（主として250トン以上）の漁獲率は比較的安定していることがわかり小・中型漁船の活路が南太平洋で再び開けるものと推定されている．（読売）

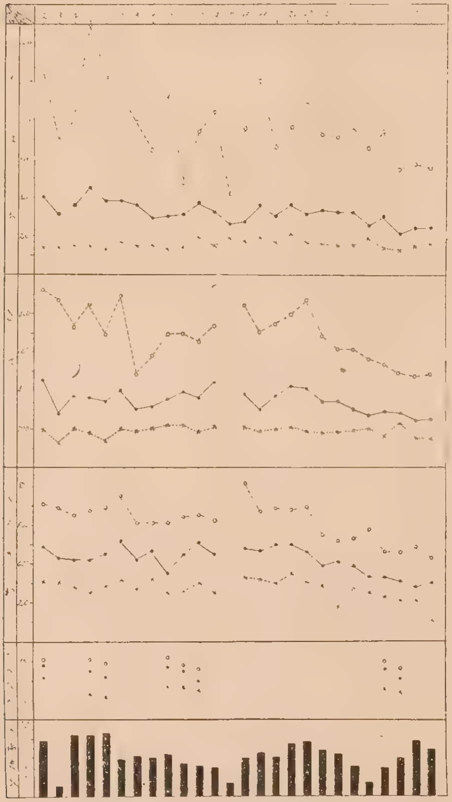
2 月13日 **豪州西域が好漁**

三重県指導船大勢丸（597トン）は昨年10月16日から1月16日まで豪州西方及びスマトラ西方海域でマグロ延縄調査を行ったがその調査報告によると，

豪州西方漁場—釣獲率5％1回平均漁獲尾数92この漁場の大きな特徴としてはマカジキが多く最高69平均32，印度マグロは最高45平均17でシャチ，サメの被害率は殆んど

なかったが1月末になって5.7%スマトラ西方漁場ー釣獲率7.2%1回平均漁獲尾数126でキハダ40% バチ，トンボ夫々19%マカジキ2%で12月中旬よりトンボが急増して45%を示したこともある．シャチ，サメの被害率は約4%．（港報）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇



鮪類水揚価格表三崎昭和三十二年一月

強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶対経験と信用のあるメーカー

クレモナ
テビロン　国産製麻株式会社

本社　東京都中央区京橋三丁目四番地　電話東京（28）6605・6606番
工場　栃木県鹿沼市朝日町 電話(鹿沼)242・243番 同上野町 電話(鹿沼) 377番

鋼木船造修一般
五百屯船台一基
四百屯船台二基

三崎船舶工業株式会社
神奈川県三浦市三崎港
（電話 三浦 343 番）

本會の圖書誌の分譲其の他について

◎ 本会發行の圖書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

會　　誌　「鮪漁業」　才 6--47 号（才1--5号品切）｛才6—28各100円 郵送料16円｛才29—47号各150円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）
　　1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料 24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）
　　1 部・　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料 40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）
　　1 部　300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）

◇ 上記の昭和28年度、29年度、30年度分 3 册--括購入の場合 特價 800 円（送料共）

鮪漁船操業圖（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
　　1 枚　50円　郵送料 8円
鮪漁場図（32 海區劃に表示したもの）
　　10 枚　100円　郵送料 16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他寫眞を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に廣告掲載希望の方は、本会伊藤專務理事迄御申込下さい。

鮪　漁　業

1958年2月号

昭和 33 年 2 月 10 日印刷
昭和 33 年 2 月 10 日發行
監　修　神奈川縣水産試驗場調査部
編集兼發行人　菅野　進
神奈川縣三浦市　神奈川県水産試驗場內
發行所　鮪漁業研究会

太洋無線が世界に誇る

各種
陸上用
航空機用
船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区衆樂町48番地
電話澁谷（46）代表5283—9番

營業品目

漁網•延縄•漁具•製造販売
船具•機械電氣用品販売

石油元売

日本漁網船具株式会社

本社　東京丸ビル六階　電話和田倉(20)代表1841
営業所　下関•函館•大阪•戸畑•長崎　工場　下関
出張所　名古屋•仙台•釧路•小樽　油槽所　川崎•女川•下関

諸官廳船——遠洋漁船——御用

創業五十年
最良の品質　を誇る
最善のサービス

株式会社
安保商店

—電話三浦116番—

◁三崎港御入港の節は何卒
御引立の程御願い致します▷

魚問屋　水産加工　漁業

長谷川廣吉商店

神奈川県三崎港
電話（三浦）三七番

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造

装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話目黒(712) 2525・2526番

まぐろ延縄には漁材科學の生んだ

比重調製と樹脂加工を併用した延縄

アサヒテツクスロープを御使用下さい

特徴
① コールタール染不要
② 着色自由　③ 比重の適正
④ あらゆるロープの中で耐久耐摩耗力は一番すぐれております。

アサヒテツクスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978・7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 957番

※　説明資料は当鮪漁業研究会に御申込下さい　※

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷藏

設計 製作 施工

協同低溫工業株式会社

本 社 東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話 東京（866）0996・0997番

漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ 砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎 ・ 花暮岸壁）

凍結能力 日産 一七屯 ──── 冷藏収容量 六〇〇屯
製氷能力 日産 五〇屯 ──── 貯氷能力 五五〇屯

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長 寺本正一

神奈川県三浦市三崎港 TEL（三浦）609・655番

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171—9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表0974—5（36）2171—9（内線350—1）

光電の方探
Kodenのロラン
Koden Electronics Co. Ltd.

株式會社 光電製作所

東京都品川区上大崎長者丸284の1
電話白金（44）代表1131～7番

鮪漁業　第四十七号　昭和三十三年二月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ（垂線間）	幅（型）	吃水（平均汐高線1.7米に於て）	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2

SHIMODA DOCK

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001（代表）～3　本社現場事務所 電話下田1005（代表）～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008（代表）～9番
東京事務所　東京都港区芝田村町 4－13　電話 芝（43）2539・8655番

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町